

# 第三世代が考える ヒロシマ「」継ぐ展 2019

町田会場 & 広島会場 & 灯ろう流し会場実施報告書



総入場者数

町田会場	1,006 名
広島会場	345 名
広島灯ろう流し会場	375 名



事業名 第三世代が考えるヒロシマ「」継ぐ展 2019

日時 町田会場 2019年8月5日(月)～8月9日(金)  
 広島会場 2019年7月31日(水)～8月5日(月)  
 広島灯ろう流し会場 2019年8月6日(火)

会場 町田会場 町田市生涯学習センター  
 広島会場 CLiP HIROSHIMA - 1F イベントスペース  
 広島灯ろう流し会場 継ぐ展ブース AT 原爆の子の像付近

入場料 無料(※一部自由研究のワークショップなど有料)

助成 公益財団法人ヒロシマ平和創造基金「ピースグラント」  
 2019年度/令和元年度 公益信託 オラクル有志の会ボランティア基金

共催 町田市生涯学習センター(町田会場)/CLiP HIROSHIMA(広島会場)

協賛 株式会社ファンブ、株式会社 DMC 広島、医療法人社団光仁会 梶川病院

後援 広島市、公益財団法人広島平和文化センター、町田市社会福祉協議会、広島大学、桃山学院大学、  
 明星大学 人間社会学科 竹峰ゼミ、NHK 広島放送局、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、  
 共同通信社、武相新聞、FM HOT839、東京新聞社、エフエム東京

協力 一般社団法人 hitoto 広島タウンマネジメント、オタフクソース株式会社、ひろしまジン大学、  
 デジタルハリウッド STUDIO、広島市立千田小学校、広島市立吉島東小学校、  
 HIROSHIMA SPEAKS OUT、Cycling tour sokoiko!、(株) mint、広島市シェアサイクルピーする、  
 Peace Porter Project、おはなしバスケット、消しゴムはんこ作家 津久井智子

2019年8月5日（月）～9日（金）来場者数計 1,006名

町田市生涯学習センター：現場ボランティアスタッフ 29名

町田会場は、町田市生涯学習センターと共催で企画展の内容を約半年間かけて制作しました。会期中は、特に小学生を対象とした自由研究サポート教室に力を入れ、ファシリテーターとして携わる明星大学の学生スタッフ7名を中心に教室を開催しました。会場では、幅広い年齢層の方々が、来場者参加型の企画や展示をきっかけに対話を行う姿が見られました。



ボランティアスタッフは社会人、中高生、明星大学の生徒を含む29名で構成。その場でボランティアを希望し、会期終了までスタッフとして携わった学生の姿もありました。NHK首都圏放送局やNHKラジオ第一放送をはじめとするメディアの取材が7社あり、ニュースを見て遠方から来場された方々が多くいらっしゃいました。



2019年7月31日（水）～8月5日（月）来場者数計 345名

CLiP HIROSHIMA 1F イベントスペース：現場ボランティアスタッフ 32名

広島会場は、広島在住の戦争を体験していない世代が、原爆について「誰かに伝える自分の言葉を持つ」ことをテーマに、親子参加型の企画を CLiP HIROSHIMA と共に考えていきました。常設の「被爆アオギリの木のお話を聞いてチョークで葉を描くコーナー」や「被爆前の広島の風景を描いた消しゴムはんこを押してタンブラーをつくるコーナー」は、連日たくさんの親子連れでにぎわっていました。



自由教室サポート教室に子どもと参加した親世代の多くは、原爆に関する質問を子どもから受けた際、うまく答えられず新しい気付きを得たようでした。ボランティアスタッフは社会人、広島大学や観音高校の生徒を含む 32 名で構成しました。展示には千田小学校や吉島東小学校の生徒も制作に協力をしてくださり、NHK 広島放送局、中国新聞社、朝日新聞社、日刊自動車新聞社の取材がありました。





広島灯ろう流し会場



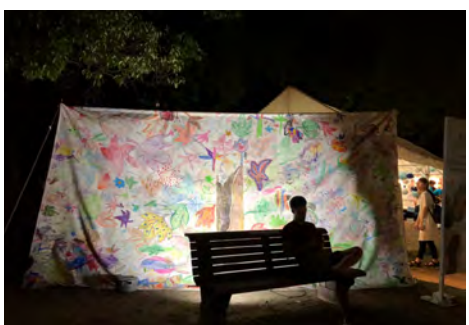
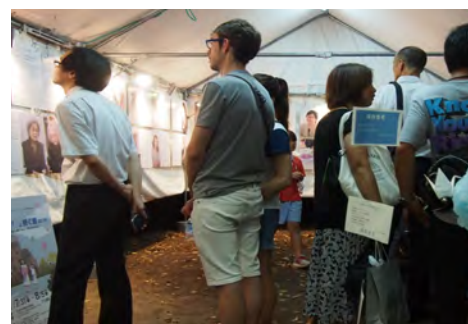
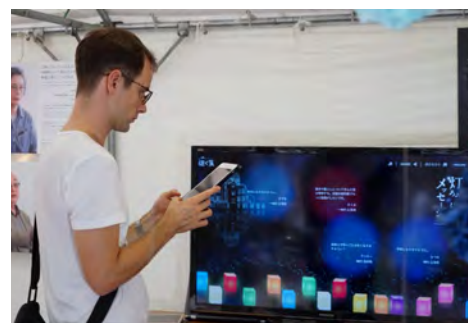
2018年8月6日(火) 来場者数計 375名

継ぐ展ブース AT 原爆の子の像付近：現場ボランティアスタッフ 28名

灯ろう流し会場の継ぐ展ブースでは、CLIP HIROSHIMA 会期中に描かれた被爆アオギリの木の展示、広島を継ぐ人インタビュー 31名分のパネル展示、みんなの考える「声」、とうろうに込めるメッセージ、折り鶴はんこをおして和紙灯ろうをつくろうの5つの企画を行いました。ブース内には、今年も外国から来られた方が多く来場されました。



特に、タブレットから仮想のとうろうを流すアプリに目をとめた方が多く、体験をしていただくと「とてもクールだね」という感想を頂きました。「折り鶴はんこをおして和紙灯ろうをつくろう」のコーナーは、お子様はもちろんのこと、外国人の大人にも非常に好評でした。当日は継ぐ展スタッフ 14名、消しゴムはんこ作家の津久井智子さん、広島県立広島観音高等学校の教員 1名、株式会社ファンプスタッフ 3名、こども親善大使 9名の計 28名が運営に参加しました。





## メディア掲載



### 新聞

- ・朝日新聞 (8/1 朝刊)
- ・中国新聞 (8/3 朝刊)
- ・読売新聞 多摩版 (8/6 朝刊)
- ・相模原町田経済新聞 (8/8 朝刊)
- ・日刊自動車新聞 (8/6)
- ・武相新聞 (7/6、8/17)



### テレビ

- ・NHK 広島放送局 お好みワイドひろしま (8/5 放送)
- ・NHK 首都圏ネットワーク (8/6 放送)

### ラジオ

- ・NHK ラジオ第1【三宅民夫のマイあさ!】(8/5 放送)



### 情報誌

- ・町田タウンニュース (7/25、8/1)
- ・地域情報誌「ぼど」(7/26)

### WEB

- ・キッズイベント
- ・アーティスト × こども
- ・JR おでかけネット
- ・子供とお出かけ情報「いこーよ」
- ・ウォーカープラス
- ・オールイベント
- ・学研キッズネット
- ・じゃらん
- ・goo 地図
- ・Yahoo! ロコ
- ・えきねっと
- ・朝日新聞デジタル
- ・ALL EVENT
- 他多数





## スタッフの感想



子供と一緒に平和について考えてくださる親御さんや、外国人の方がいることを知れたり、6日のブースでは被爆者の方が来て下さって実際にお話を聞くことができ良かったです。

継ぐ展に参加してみて、原爆のことについて深く知るのが怖い、とずっと思っていたのが無くなりました。私達が原爆の悲惨さを伝えていかなきゃいけない、そのためには知らなきゃいけない、とちゃんと思えるようになりました。

自分に出来ることを考えながら今後も平和について考えていきたいです。

広島大学 女性

ボランティアとして参加させてもらい本当によかったというのが今の気持ちです。自由研究で、子どもたちと一緒に資料から答えを見つける手伝いが印象に残っています。

質問は基本的なものだったのですが、子どもたちと一緒に探すことで、原爆の基本情報が自然と頭に刷り込まれていきました。これから自分が広島の外に出て、ヒロシマ・ナガサキを伝えることになった時に、役立つと思いました。また6日のイベントでは、たくさんの方が会場にきてくださり、原爆のことを知ろうとしている姿を見て、国や地域を超えて、平和への思いが一つになった気がしました。そして、何より一緒に活動するスタッフの方々の人柄や優しさにたくさん助けられました。感謝です。そんな方々と一緒だったからこそ、楽しみながら、実り多いボランティアになりました。また来年参加させていただきたいです。

広島大学 女性

2年目の参加で、今年は沢山参加できて私自身学べることが沢山ありました。

小学生が一生懸命学んでくれる姿に感動し、また私も広島にいる間多くのことを学び伝えていける人にならなければと感じました。また来年も参加しようと思います。

広島大学 女性

広島会場で来場される方や自由研究に参加される親子と話をするうち、自分にとっての「継ぐを考える機会になりました。

ご家族が被爆された方もいらっしゃって、絶対に当時のことを話してくれなかったという声も聞くことが出来ました。事実と感情を知ること、周囲の人に想いを繋げられる。継ぐ展はそのきっかけであり、私たちも誰かのきっかけになり得るんだと思いました。

社会人 男性

知っているようで知らなかった広島のこと。改めて気付いたことや考えさせられたことを子供達と一緒に自由研究ツールを使って学ぶことができました。イベントタイトルの「継ぐ」の中に、自分なりの答えが見つかったような気がします。

社会人 男性



## スタッフの感想



このボランティアを通して学んだことがたくさんありました。広島で育ったので小さいころから原爆のことについて教えられたり、学校で平和学習をしてきました。

また、高校でも色々学び、8月6日のことについて大体は自分の中でもわかっているつもりでしたが、全然わかっていなかったということを知られました。そして、改めて戦争や原爆の悲惨さに衝撃を受けました。

自由研究サポート教室では事前学習や解答レクチャーがありましたが、子供達が「なんで？」と聞いてくるのを解答どおりに答えても、あまり納得していない様子でした。

被爆していない世代が原爆のことを次の世代へ伝えていくという事の難しさを実感しました。

2日間という短い間でしたが、考えさせられたりする事が多く、とても勉強になりました。

この経験を生かし、戦争や原爆の悲惨さを次の世代へと伝えていき、二度と戦争が起きないような世界になってほしいと強く思いました。

広島市内 高校生 男性

前回よりも体験型のイベントが多くなり、イベントに参加しながら広島、原爆、平和について学ばれる方が多かった印象でした。自由研究では、子供達の制作物のクオリティーの高さに驚きました。

タンブラー制作のブースでは、消しゴムはんこの精巧さに感心しつつ、被爆前の賑やかな広島を想像して制作される方が多い印象でした。原爆が落ちた直後だけでなく前後の広島も知る機会があったことは今までの平和学習になかった気がします。

今回は子供連れの家族の来場者が多く親子で原爆や平和について考える良い機会になったと思います。今後、タンブラーや平和新聞などイベントの制作物を見返す事で平和についての会話が増えることを期待しています。

社会人 女性

今回初めて参加した継ぐ展は、ヒロシマ「思いを」継ぐ展だと感じました。

継ぐ展のスタッフ同士で繰り返し話し合ったことで、子どもたちに戦争や原爆について伝える方法は、知識を伝えることが全てではないとわかりました。大切なのは、子どもたち自身の目で見て、自分たちの心で感じてもらい、考えてもらうことだと考えました。

8/6の平和公園のブースで、海外から来られた方が、他の国から来られた方とお話をするという光景を見て、継ぐ展が人と人が出会う場所になっていることに気づきました。

私もスタッフとして継ぐ展をサポートするうちに、本当にたくさんの人(継ぐ展のスタッフの方々や多くの支援をしてくださった久保田家の皆様、CLiPの皆様方、継ぐ展のイベントに参加して下さった方々)に出会い、関わり支えられていたことに、今更ながら気づくことが出来ました。そして新たに、来年スタッフとして参加したいという方もいらっしゃるという聞いて、継ぐ展に関わる人が広がり続けていることが実感出来ました。継ぐ展の輪がもっと広がり、たくさんの方の心に平和への思いが灯ってほしいと思います。

広島市内 高校生 女性

自分が子どもの頃目を背けていた原爆の写真を、中学生の娘と一緒に見て、戦争についての話ができる、そんな機会が東京でもてたことを嬉しく思いました。そして、初めは一步引いていた娘に分かりやすく話しをして、興味を持たせてくれ、そのままボランティアをやるという意欲まで出させてくれた代表の久保田さん、人をつなぐパワーに心底感心いたしました。ありがとうございました！

周りの人に伝わるかどうかは、伝えるものと伝えようとする人の力も大切だと思います。今回のイベントは、企画がしっかりしていたことはもちろんのこと、そこにそれぞれの道でご活躍の方と学生ボランティア、その他のボランティアの力が加わって、参加者が熱心に耳を傾けてくださったこともあり、たくさんの方が伝わったイベントだったと思います。

原爆を通して平和を願う人々の心が繋がったようでした。

今、小学校では原爆に関しての道徳の授業は少ないことや、子ども達に学んで欲しいと思っている保護者が多くいらっしゃるご高齢者になられた被爆者、戦争体験者は伝える場があれば惜しみなく伝えたいと思っていられる方が多いこと…ボランティアとしてお話しした来場者の方々から知ることができました。継ぐ展はそんな知っている人と知りたい人をつなぐことが出来る場だと改めて感じました。

原爆を、戦争を昔のことと風化させないためにも、今後もこのようなイベントで多くの方が感心をもつキッカケが芽生えたらと願います。私もこの機会に平和な世界になるために自分は何ができるか考えたいと思います。色々なキッカケをもらった継ぐ展に参加できて本当に良かったです。

社会人 女性





## スタッフの感想



今回はじめて継ぐ展に参加しました。最初は不安でいっぱいでしたが、周りの方々がとても優しく安心してました。今回は主に小学生や中学生に原爆について教える自由研究サポート教室を担当したのですが、子どもたちが自分たちの説明を聴いてる姿や聴いた話を模造紙にまとめる姿が熱心で、見ていてとても感動しました。これから先被爆者の方々の平均年齢は上がり続けいずれ話を聞けなくなる日がきます。その時に語り継ぐことができるのは、実際に被爆者の方々から話を聴いた私たちのような若い世代です。今回の継ぐ展では小学生や中学生に原爆について知ってもらいましたが、今後は大人にも原爆について知ってもらいたいと思います。本当に継ぐ展はさまざまなきっかけをくれるイベントでした。そしてボランティアの方々と仲良くなることもできました。すごく有意義な時間だったな今振り返って思います。とても楽しかったし、有意義な時間を送ることができたので、来年以降もぜひ参加したいと思っています。本当にありがとうございました。

明星大学 男性



今回初めて継ぐ展に参加し、企画の段階から携わらせて頂きました。当日はとても居心地のいい空間で、いろんな人とコミュニケーションをとることがとても楽しく感じられて来ました。

特に深く携わらせて頂いた自由研究サポート教室では、子供たちが真剣に考える姿を見て、より分かりやすく、より楽しく学んで欲しいと心から思い、自分自身も改善し、努力してきたつもりです。もちろん、辛かったことや、大変だったこともありましたが、それでも最後までやり切れたのは、代表の涼子さんをはじめ、スタッフの皆様を支えや、来場者の方々からの温かいお言葉があったからだと思っております。機会があればまた、参加したいと思っています。

明星大学 男性



5日間を通して1番に感じたことは、子供たちと学ぶ大切さでした。初日の自由研究では表現の仕方や言葉選びなど、どれ1つをとってみても難しくなかなか模造紙に書くところまで行きませんでした。回を重ねるにつれて、完成させることが目的ではなく子供と一緒に知って考えることが大切だと思えるようになりました。

また4日目に担当した小学2年生の男の子が、小さいながらも一生懸命展示を見たり模造紙を書いている姿がとても印象的でした。今回初めて参加させていただき、いろんな方との出会いや発見がありましたが、ぜひこれからも活用していきたいと思っています。準備段階から長い期間本当にありがとうございました。

明星大学 男性





## 来場者の感想



長男は、学びを深め自由研究をやり遂げた達成感、「遠い昔に起きた、僕には関係のない事」だと思っていた戦争に思いを寄せる事、異年齢の方々との関わりなど、多くのものを得た1日になったと思います。

当たり前の暮らしに感謝し、2度と戦争を起こしてはならないと強く心に刻み、鎮魂の8月を過ごしたいと思います。このような学びの機会に触れさせて頂いた事、感謝します。ありがとうございました。

町田市在住 40代 女性



本日は貴重な企画展を拝見させていただきありがとうございます。語る機会、考える機会、知る機会を作ってくださり感謝いたします。もし来年の開催も実現した際には、ぜひボランティアで参加させてください。

町田市在住 30代 男性



とても素敵なイベントでした。当時の方達の想いなどがよく表現されている企画展だと思いました。被爆者の神戸さんのお話も、フロアに流れる優しい音楽もどこか懐かしくて、ホッととして、泣きそうになりました！また来年も開催されるようでしたら、是非行きたいです！

町田市在住 30代 女性



長男は長崎の原爆被爆者の松山さんと「被爆」と「復興」について研究されている桐谷多恵子さんのお話を2時間最後まで聞いていました。会場には、当時の写真や絵が飾られたり、いろんなワークショップもありました。1つ1つが丁寧に伝えたいことが伝わって来ました。中でも企画展に参加した後自分がどんなアクションが出来るかを考え、折り鶴を投票するアイデアは、凄く素敵だなと思いました。平和や戦争について、日々子ども達に継ぐことをこれからもしていきたい！！と改めて思いました。とても意味のある時間を過ごさせて頂き感謝致します。

小金井市在住 40代 女性



広島に6年ほど住んでいた間、平和記念資料館には何回か行き、子どもも連れて行きましたが、実は、語り部さんのお話を直接聞くのは今回が初めてでした。来て本当によかったです。いろいろと考えさせられました。

元広島在住者 50代 男性



場の空気感、スタッフの皆様の心地良さ、そして継ぐ、問いかける。ものすごく共感してしまい、2回訪れました！大切にしたいことや、想いを継いでいくこと、沢山のメッセージを受け取りました。父の実家が広島市の観音で小さい頃から原爆は身近なテーマでしたが、今、改めて、考えさせられています。とてもとても素敵な企画展でした。

広島市在住 30代 男性



子どもを平和資料館に連れていったことがなく、時期を考えていました。今日は原爆や戦争というテーマと子供が真剣に向き合って自由研究をつくっている姿を見ることができて嬉しかったです。親子で話し合うとてもいいきっかけになりました。

広島市在住 30代 女性